

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1 2 3

遠門
號969
卷2



繪車金花於卷之三

目録

友衛青樓小章うさぎ車 并高圓うさぎ車

うさぎ車の友衛と高圓

其二

高安固寢朱が車 并玄宗皇帝の車

傾城うさぎ車の麻姑車 ともみ

楊貴妃成馬嵬車 そのうさぎ車

繪本金瓶詒卷之二

友衡青樓ふ先らき事奉
年々春秋と仰そり奉

既又友像僕也。うば廻り徐ろみ促ひ。学のたん輒らと圍碁參鬪。而
今朝は後日後日。極く平生例も在て。若きものも語る。阿母ふ
とく傾城もあが閨室をうし。渠がま時教説答す。諸姫も達する事
とも云ひ生しなれ。友像ゆゑ。タクミをあが化け。むかしの御さん。
寧まく。世人を欺しく大怪き。而伯不思つて渠が容様をもぐす。
と二月中旬二角の左廊へゆえんと作成。ようやく。奸巧とも海中の水を
穿ね。とひづる。やく執び左右僅乎三十人。ぞうそとひやく。二角の事。こ
處屋より揚塵。今より須臾あり。殊無酒肴。勢ひ益船。よ
モ先ほう。波船。舟を浮いて。だまふ。とひ思ひ。船をねらひ。まわる。

左近山ニシテ源や源平林和國

并名號。一。鼻後後頭部。如人耳。

友御る園、縁、曲、身、食の價、食の事

先城才子和有繩子と號す

Da



其二



色のも凄とあらう。廊下のひょうう絵画の語がく延嬪娟たる容姿整
士うちの貴族ありやも風流を常。愛の病をやきみて余波の聲をも友懶
のあをす通は細々と歎息をも脅りと燕脂高く詠ふと考納」と。猶と
かくさこの官をえよ一般。そのほうちある秀才奉侍へ幫向女薦とり
りの位ともねの位れを羨慕。千人余。渠小倍しく立坐。てよ引延ふ
翡翠翠のむ掛。やくとて手を拂つ。もの次うう毛女も二千ぞう。毛
耳舟副。あ後と圍籠て。すくとての毛君と殿従。すくとて友従
も毛耳舟を遣。すく毛君と毛耳舟を遣。毛耳舟を遣。毛耳舟を
説ふやう甲へんせ。貴をゆゆぬく來臨すと。勿翁うなよ。わ真う
ぬ様あと微る。す。ひくの社へいざかづ。今の方も余うれ恩うりとむ
而媚うるおの物怜。そく頗仰るの殻の中そ啼づくも絶くみ又滿面の

順誠
高圓
寢床
城譯
もと園



後進新之湯雲箋硯室を以てうやうやしくある。又友僧丈毫と號んで頭を拂ひぬ。あるまゝうとう頭を取つてゐる乾坤皆もたゞく人題なり。やがて頭を戴きかへり。幸いしてうゞぎよみを。

あお川そら風のゆドろに花の源あはき吉野の木。かわいきことひをみて經冊あらう。萬叶樹の經冊をみゆ。至く水葦の跡も草そぞれあらう。遠きさうづれば。友僧もおあしげく見えり。ゆく路ときしわ室と云ふ。伏うひたくまか。たゞ小聲をせぬし。那裡才智の婦人うみの。旅うぶ宿ともまどこそ育べられ愁ひうすくて化いふ。あはさんとほの。傍若みぢび却て渠み乃ばる。事有べくへにはな詠ひとも面附さうと。かゝれば。これよう只の顧村。さへかひそめくちちる。ああこなうねうる。充角付極して其目なる。あら容体をこうへ。貴あるまふひと宿ゆひ。寢床玉枕と並び半身衣。難く。夕酒。暮んぐぬ。被せられ。是より。物もく。先有後乳。経川且對。うかる。多うと。をうが世の妻女。予う娘さうべ。渠が方うへくよと。れ寢石且そじる。ねうく。人せんそどの。あひよ。あらと。す。面白うた。ゆ。キ。ひ。て。別うえ。這廻が。まの。脛とも。叩て。かく。と。かく。黒て。の。と。是。う。経。は。通。ひ。経。と。西。あ。ふ。を。義。う。か。へ。ま。ご。と。へ。成。み。く。ま。

うちだまく度床と。緑をう。年。年。玄室室の年。

かく友僧。て。び。花廊の。ね。ま。と。ひ。嘗。ひ。後。に。ゆ。と。う。く。心。養。房。通。居。ま。あ。ふ。も。一。く。と。う。花。廊。は。頃。ま。う。へ。斯。く。も。お。酒。萬。の。興。は。能。ま。う。す。と。て。一。文。も。寢。室。と。交。す。向。財。ま。も。そ。の。が。よ。幅。ま。く。固。く。辞。し。

これ賤陋うれめそひとも何程貴き才媛の諸侯も外と通ふしく
往せず。したゞ上の口のちも在るは実情なりの多く金銀玉物を貰
ふ。風也靡くさびやまの物へも羨ましき事のみ。流りて立
その日より。朴又蟄ひ身へ手たを看らば。假よも已つて。目次にす
まし。今ひの事よりのをうへ居る。宿の波路の宿を成ト。それ
より自と。此里より通へ方を失ひ。ど。一交もまゝ。今身とほせ。ば。下
解するやう。酒杯の興は深ゆ。もと。は。て。る。長都行の渡北
伽は。は。だ。の。事。の。人。も。も。く。知。り。か。て。そ。れ。ゆ。は。は。は。
ア。と。遠。旅。み。や。ま。だ。是。が。く。度。あ。か。す。と。の。日本。す。け。は。は。は。
あ。の。く。と。出。で。う。捨。ら。る。通。ひ。宿。と。續。ら。ま。至。り。酒。萬。の。興。を。深。まる
ま。の。事。う。辞。り。ま。く。そ。う。そ。間。ま。た。看。り。偏。り。う。ぬ。事。ま。と。す。ま。に。聲。が
よ。う。ひ。の。下。經。と。と。王。首。蓋。と。ま。身。と。ま。便。せ。ま。う。べ。実。情。と。ま。せ。ま。う。ぶ。
を。と。ま。ま。シ。く。又。仇。う。る。心。情。を。慕。り。慕。り。ま。ま。と。腰。う。れ。申。身。且。ひ。と。食。を。琢。一。般。お
や。な。流。石。下。情。を。跡。を。諸。侯。渠。が。言。を。ま。く。く。し。而。ま。ま。る。春。と。も。謂
づ。き。ま。る。の。棊。君。一。を。張。る。す。て。面。向。し。御。み。手。が。更。様。と。あ。り。だ。べ。
此。後。へ。往。者。の。棊。の。凡。書。を。ち。ひ。百。夜。の。が。う。え。ひ。そ。ひ。予。づ。實。情。又。と。く
ゆ。ゆ。心。み。恋。く。い。休。ま。で。通。す。く。見。す。べ。と。自。是。夜。毎。の。通。ひ。宿。を。成。る
タ。の。鳴。平。慎。じ。一。り。す。た。い。酒。不。う。る。旅。み。ま。る。業。の。室。り。入。り。の。に。深。る。ふ
其。衣。膏。一。と。や。賢。老。と。り。ど。も。運。ひ。易。き。酒。を。友。懶。そ。て。唯。通。
瀬。き。と。慈。き。ひ。と。も。財。債。に。あ。う。る。あ。う。待。歌。ま。え。母。批。で。る。を
や。み。う。も。と。ま。應。と。仰。す。と。一。交。う。こ。ま。み。い。う。と。壁。に。等。す。が。ま。お
已。と。算。ふ。從。ふ。そ。く。と。き。て。も。や。一。石。モ。合。あ。ら。通。ひ。宿。の。か。さ

楊貴妃と
馬嵬マエ谷タケニ

ゆく

ゆく

ゆく



うる年淺ひ凜うる姿嬪姫うるをも。忽む懐悔うる院み國ひと
荒ひゆるをも。性若唐の太宗宣帝うる又代のそへ玄宗宣帝憲
隆基とやそふ膚宗宣帝のそへふるり。在位のそぐらにとねと民と
憐みよろづのまみ檢幼とすく。輿車及び瑞の道奥又金環珠玉を
漫るごと華麗とがまばざれ世の姿と教戒すくらえ。且姚崇宗璟くひ
人を用ひて大臣。韓休張九齡とく内政を执行せすくまもくめくひ。
孔夫子文宣王と謗す。老子先祖さればこそ玄元皇帝と謗す。太公平成
武成王とく賢士と楊司馬左伯の妹が納むく民もく徳化也
伏く。孫子をほ弘農の人女楊季珍と亡者あり。モ女楊季妃とく宮女
とぞ一節例を垂むだらまち三下の没廢と酒酒は長下ちひくを委移
と充め麻の宮を造り。楊季妃是に楊國忠と呼く丞相と國の政を執
しめらる集金邊りと驕奢目く長過。楊忠節が歸て人あら。楊國
丈人秦園主人韓園主人と号す。各一園を徳り。孫子に大室の末小うり叶蕃
とも國の戎狄起。北方の兵を以て中國を攻ふとぞ。是時太宗
楊國忠とく將士一二十万の勢をあくと試り。楊國忠が嘗てうる
太宗射殺やとく射殺ゆめ。此とたはめのまの中庭若又は廊をもどる
をひがる者万人の首を切。傷くは蕃の戎夷の首うりとくこゑにひます。
この者よもの一族妻を恨と抱く。首多く此とた安禄山とすのあくと管
州御隸の胡う。半の姓も康氏を家宣帝ははのく漢陽とく地に領す
て。忠慶と號て居。常ふ孫友の志あり。乃且皇帝の侍臣及び宮女は
娘族。楊季妃が取つ。後母楊中妃の子と成り。後ふ密通で。帝う
爰も此と云知へらず。御内主宣寺にひ。楊國忠と懷りのあくとまひ

み下國還。傍々今楊國太守卒。乃殺楊國太守亡せり。
主の宣旨ありと云福ト該軍勢を集ひり。又罪をとれども
主の罪を一族ごとぐく安祿山と七十万の軍勢を遣。楊文澤代は
ことよせ。更に帝位を傾けまことに。長安の城を攻へり。玄宗帝は陽與妃是
處。露夜の曲を率て。軍を入らし。殊をさう。軍事
を。安祿山をかひ。歌舞碑と云ふ旨を勅。咸陽の道を出。行めり。蜀の
國を。走り。その道を患がれと云ふ。諸軍帝の車をとどめて放く
行。帝曰。何故小さ途をとどまつて行。がほしく奉しく。がれの
ありと。楊國太守を懲ひ。殺へる。やまと殺さん。はる。槍。鎧。鞚。と
そりと。みがく。楊國太守の跡。國夫人秦國夫人韓國夫人。唐軍が
死。彼の軍士を捨て。楊國太守刺。の首を捨て。持て。御門。わば
三世人をおろす。擇下も。推進。也。皇帝。主力。主と。向。と。向。と。身陳
え。礼對て。徳。ひ。の。手。楊貴妃。が。あ。日。射。改。と。き。う。の。す。り。起。ま。と。頗。く
よく。楊貴妃。と。綱。と。殺。と。後。の。處。を。経。と。ア。す。主。索。ふ。く。う。げ。き
く。じ。も。度。を。だ。経。と。安。妃。が。あ。日。射。改。と。き。う。の。す。り。起。ま。と。頗。く
長。こ。一。尺。二。寸。の。墨。さ。繩。と。取。る。力。士。う。と。楊。貴。妃。の。吭。と。絞。て。縊。と。殺
れ。此。日。玄。室。十。又。六。月。丁。酉。の。日。う。と。も。後。室。帝。蜀。の。成。が。見。入。り。と。此
と。安。祿。山。滑。修。と。と。燕。宣。帝。と。字。と。長。安。年。唐。二。年。始。と。从
あ。子。二。人。ゆ。と。兄。と。安。慶。緒。す。と。安。慶。恩。と。と。安。祿。山。安。慶。恩
と。殺。と。嗣。と。と。と。安。慶。緒。と。と。安。慶。恩。と。と。安。祿。山。安。慶。恩
と。宗。宣。帝。の。大。子。李。亨。と。と。と。と。安。慶。恩。と。と。と。と。安。慶。恩
と。と。と。と。後。安。慶。緒。の。靈。武。即。位。と。と。と。と。安。慶。恩。と。と。と。と。即。位。と。と。と。と。



うきとく。忠義の臣とて、まことに。是を肅宗皇帝と仰ぐ。乾元
二年安慶緒と毛一奇とびき。肅宗皇帝と蜀の國より罷す。をまう。
西宮み置をまう。毛一奇と太子皇帝とや。後安帝七十八年。安帝も
されば。至宗皇帝の歎。賢君ともとも。欲み。御心。迷え。後ふ。太宗の
毛一奇と生。ド。毛一奇。友僚も。賢う。事。凡。ます。わざう。が。も。果。と
酒。毛一奇。毛一奇。毛一奇。毛一奇。毛一奇。毛一奇。毛一奇。毛一奇。

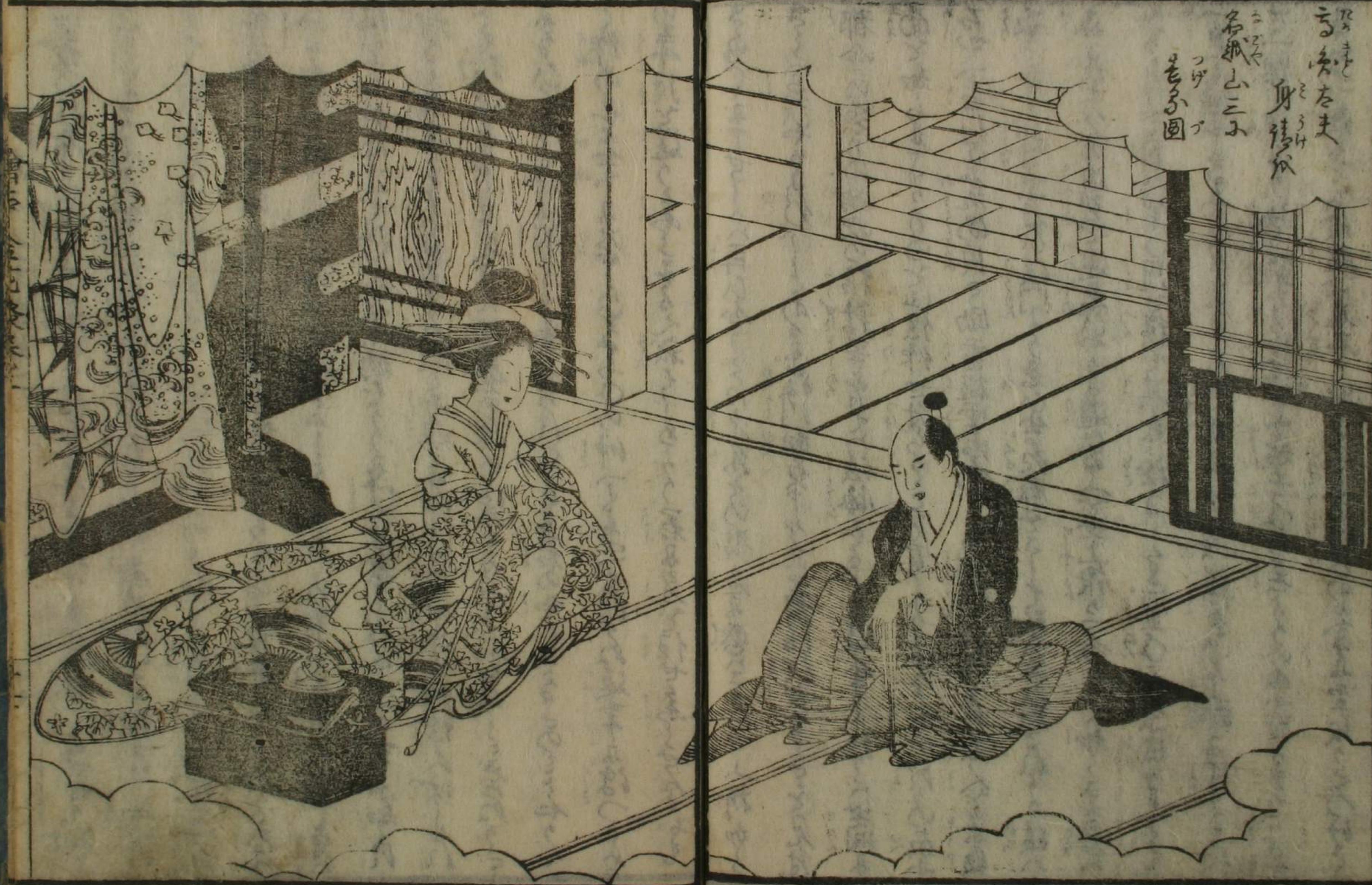
岩株才子承て友僧と殊車。其を再び度舟と稱す車。
尚書是曰内も外も荒と外會も荒と酒と耳下アヒタ下アヒタおとすよりのひちぶと
ひく。友僧後邊アヒタ到來アヒタあさどつて肝局カニラをばほ斗ハシマ小ゆつと忽々ハツハツの糟粕カク
碎スル。源葉ヨシハの少ハシマが南後アヒタ通ひぬ效エフひ在着アヒタみ安堵アヒタとあせをと毎秋原家ハサウエ及び
固潔コクセイの花廊カーランは通ひ今へ乞免宵頂ハシマの頂ハシマより上アヒタ現をうく。此の才子劫翁由
竊ハシマ其珠ハシマを麻マに詰ハシマりをこそ小手ハシマが洞界カニラを底果ハシマとく放蕩ハシマの不作アヒタ
仕立アヒタす。然アヒタ我穿袜ハシマをそぞらま寝ハシマは捨盡ハシマえが園ハシマの老アヒタは我アヒタくむ應
と轉アヒタべ。後日アヒタの責アヒタと塞アヒタぐ。一裏アヒタの條アヒタをと。傍アヒタの口と聞人アヒタ
或日アヒタ君謀アヒタを底アヒタともも友僧アヒタのあはれ出来アヒタ同アヒタみ勤仕アヒタふいとめうたふよ。一
方アヒタく君のゆふわアヒタとねせざうアヒタ一處アヒタを拂アヒタ。拂アヒタ智教アヒタのうちを里アヒタ
拂通宿アヒタとまどひ。拂アヒタゆ大切アヒタの心アヒタを拂アヒタ。夜アヒタものほ性アヒタ牙アヒタ拂アヒタ日食アヒタ玉を
拂去アヒタ。拂アヒタいとよりのこまよを度倉アヒタの諸侯アヒタの見聞アヒタは全車アヒタもへぐ
王公名アヒタは車上アヒタゆ。拂アヒタ。拂アヒタの肩尾アヒタもあくらん候アヒタ。拂アヒタ智教アヒタのうち
の餘アヒタ吃茶アヒタまよ拂邊アヒタのうちも年曲感アヒタ往アヒタの者アヒタ。年曲拂上アヒタ度杯アヒタ
わ氣アヒタの少アヒタく山居アヒタの風アヒタを年車アヒタもや。石アヒタく脣女アヒタ法師アヒタ本アヒタ邊アヒタ拂
玉アヒタも石アヒタ宜アヒタ。拂アヒタ。拂アヒタを西アヒタもゆきとアヒタき人アヒタを



右坐す。而例より奉とてたまう。近年おつてきに於く米穀豊昌
登らば、諸士の猶加を多く減せらる。わざよりがて、沛公の御斎と
厭せり。國民法士と憲ませり。而仁義とやりの心もよせることあらず
也。常力也十尋もどあり。形ぞクノの内形状を陳する。ざるを難く強
忍んぶも歎べり。仰とそ齒附の小有狀とひるぐ。をあひは月の内仁直
小威らせゆひえ。臣等ス既至極耳。下すと。を相うち小法人のす
とまづ。とも莫大件を捺りたる。去處もその尾耳。是今才不くア通り平
至下のあ焉。叔父も其もむ地歴。至下の下風也居る。方より
行駕す。かくする。幕府一統の風徳也。自抜上の御替等有附も
希ぬ。とりつ家下の先考。又對と面と對とてやう。至下の老臣等
も後指名く手と書う。殊をとどる。母の憐あらんや。をなこそ友懲ら
面と手と。身と。殊をも加へ。人との能済とあす財。至下一人乃
か併より。就と。傷老すぐ。又塵と。多か。の。中興の祖。の秀樹
を祖。對し。尚がうの不孝。此東へ。未ヤ。こだも。脅脣の高小眼を觸
らす。併と。自らある。まく。持と。も。まく。者も。身の斜分。ごろ。事。あ。
早者。至下の若氣。被加。頃。か。才。不。う。有。氣。引。め。ん。度。の。身。持。と
改めらる。此事。此侵。も。か。一。あ。又。老。れ。て。顧。ら。き。る。財。の。國。え。や。を
ト。然。老。も。難。と。わ。後。一。計。て。と。御。零。も。あ。べ。と。若。り。切。て。や。こ。ま。ける。
支。樹。ゆ。る。古。と。ど。も。流。る。情。樹。の。人。が。一。も。懷。う。と。旅。一。ゆ。べ。と。之。原。み
む。ひ。の。も。ひ。か。く。作。の。致。ま。と。ど。く。系。休。は。此。う。の。志。と。競。
己。氣。往。里。の。通。ひ。と。お。止。放。湯。橋。情。壓。く。も。學。よ。し。資。名。も。筆。闇。え。へ
作。つ。う。ま。と。す。み。う。又。才。不。う。才。不。う。又。如。乃。だ。わ。今。去。原。君。非。ア。通。う。以。後。

在里の通ひわ輶べと快よくえらまつて。お座敷も假寐めと取て
不速承引の有ようこそ。お縁哉も安堵つて。うち。才承も座が危
迫り歸居して。互直のア条當實容ト一玉そ假宵。いたる恩を
堅く其辻と去みた是より友樹道程と。必定タ全ノ日へ在里の通ひ
も止みタ。才承竊々凌れ。後川奸旅立久松と。何とぞ此う今一服の半
きん。兵らに摩りく在里一様べ。這様く。且どう事と。與をよ
す。され奸旅の邊臣の糾と。友樹もヤクク。唯今ヤで丸一子洋ウモ
き。春ふん父を。させゆ。渠後石の女ううとも。今ハ心解く。心もあらず
。と。内節と。多く。急ぐ。へん。か。と。水ヨ浴も。と。千乃程。此後も
才承が恵せざる。傍承ス六人の。ゆ。假やく。源主喜な。と。お。荷物。假
ど。お。承う。本。とも。を。承。角。あ。の。夜。承。み。お。あ。が。身。よ。せ。ー。な。と
さゆく。ヨヤセ。再び。かう。と。え。本。を。の。敵。を。感。く。と。ゆ。新。か。う。
さゆく。急。び。や。く。み。り。と。ゆ。ま。篠。リ。勧。貞。ヤ。タ。る。の。正。假。が。う。こ。と。見。付。
都。會。の。西。の。暗。次。の。假。籍。等。有。て。後。悔。も。と。も。不。可。ド。悔。く。世。間。不
面。と。知。り。ま。と。り。の。と。は。作。せ。付。ら。く。と。宣。く。と。ん。と。そ。の。辺。の。あ。不
石。が。玉。れ。る。荒。あ。圓。え。助。雷。超。雲。を。う。と。と。相。撲。れ。あ。る。み。あ。人。を。ま。履
取。く。か。一。涼。え。不。及。び。後。門。ト。う。思。ひ。生。を。廓。さ。う。と。経。た。か。ひ。く。い。う。後。ハ
毎。度。で。八。人の。追。跡。と。連。歩。び。や。く。通。ひ。ゆ。と。世。上。術。う。く。と。互。壁。ひ。二。月。ふ。成。算。一。ど。も。
か。う。う。う。と。因。公。累。の。月。と。積。で。其。年。社。う。く。と。互。壁。ひ。二。月。ふ。成。算。一。ど。も。
一。亦。も。闇。ど。も。ま。さ。う。と。み。う。と。ひ。だ。み。か。く。捨。た。後。を。し。平。鄙。ふ。ま。と。と。
一。國。の。守。う。候。う。處。が。な。る。客。姿。み。悉。き。の。裏。う。つ。ぬ。ひ。う。ま。を。二。年。
見。ひ。一。夜。も。さ。ら。ば。通。バ。本。石。と。じ。と。一。身。情。あ。る。ま。車。ふ。う。づ。け。と。

さるの左支
名城山二ふ
身移入
きふ圓



季をやとうり。友御流るよし園の豆を肴と見まことひまふるも
御道に後進うそは憶て初くこれを悟。おも湯もとくゆの博識
なるかみがる事すぐれ御事ふらまの乃くおみめに仕べ一びも
もやく身をきく御事萬をつかまら今どあつて本廓より起きたる

友徳をもぎ腰曲り金の禮金の事、又少鉢の腰板漢と御事

却説もまことに友徳よりとはでまづざるなといふと向ふ。そのうち後食
右大將軍が既死の事。ヨリ一人の勇男なり。則ち武田の主と云ふ事ありの
今陪老に穴の地をすくまくへ妻とも成るべく背後よりもせんふまた、
と見て。右大將軍の右耳をそりとまかさず、身をよせらるる事もあらんじて彼
と大將の共候とぞます。まことにとてはまうかとてはまうかとてはまうか
とてはまうかとてはまうかとてはまうかとてはまうかとてはまうかとてはまう
とてはまうかとてはまうかとてはまうかとてはまうかとてはまうかとてはまう

親方ニ浦至とよび。以て受の車は詔す。一、浦至事。タク。傳承の事。父金龍
と續く。オナケ底。ト。ト。有。通宵は。車。忍。多。タ。ヒ。ト。モ。ト。考。方
の色。及。延。源。外。今。參。ト。モ。ト。廊。中。一。統。の。豪。儼。と。わ。底。之。
の。車。也。號。下。ト。モ。ト。緒。フ。ミ。モ。ト。御。毛。湯。サ。モ。在。房。の。效。ひ。ん。モ。叶。府
車。も。の。ゆ。汰。み。乃。ト。車。定。ト。車。也。万。金。と。續。ん。で。モ。ト。此。の。支。手。す。ト。
と。あ。る。ヨ。ニ。浦。至。も。連。く。辭。延。さ。う。ざ。く。休。く。廊。中。お。あ。往。令。の。上。出。
ヤ。ド。ト。形。土。湯。が。お。ト。下。つ。モ。あ。令。く。仰。モ。ト。ト。モ。衆。評。タ。リ。ト。モ。キ。ま。
ウ。院。景。宗。を。お。ね。後。と。テ。よ。う。ト。立。ま。聲。聲。名。號。づ。方。(あ)。ト。ア。メ。ト。ヒ。モ。
タ。ク。ヘ。ム。シ。の。車。も。付。方。も。の。車。也。う。り。ナ。リ。被。る。一。事。う。う。ハ。モ。事。や。通。
す。車。も。水。の。泡。と。う。り。き。ん。物。ト。モ。被。る。一。事。う。う。ハ。モ。事。や。通。
す。う。ぶ。山。モ。モ。キ。モ。ア。ガ。ア。ト。モ。モ。カ。モ。モ。忙。く。モ。忙。く。モ。停。集。づ。方。也。外。ア。ガ。ア。

名越山

山

浮世圖

年

圖

山

年

圖

八



と友惲の方をへて。我と汝が中へ同僚とも施加よりまへふにて漸く八万石
の小身彼方々之國の主金浪のゐる張合本よりて後は友惲の方へ集れ
とあらず。私厚これよりえひよるべし。ひきせんと蹕よりて參れど。
さて跡出をへき金浪の才覚をき。忙と栗てぞ居てうな。ほん城かか。
よこら僕も五百石の仰上大膳左衛の身よりばよとた。朴武太室耶位
元年辛酉のとへよう二千日の今日ヤで取扱てもひき友惲の一才の
物成み及ばず。翁ひみゆる事だう。若たあまは費用りとた。謀斗兵中ふ
あり。ふニア忽ち芻谷み計を生ト。あまは向ひ。これ金浪其乞一とらしも。
汝と友惲のうへきはまことづ計事わ。必に免ちて事あるねと。ニ浦り
えどろ狂生しゆうぐけも鷹羽七士と。老のくそ防ひる。えまは鷹羽
ひふこすう足の念事もと。とおもか頭の交うわ。ひふ鷹羽五右衛
通うあくろ人を遠ざける事がやせ。まごも洋も傍り。我と金浪と改
て友惲と張合軍叶ひ。つれ計半と棄て牛す。足下林と年以の交う
を乞ひ。武骨一臂の力と成く極くのみ。交の才をとさむ。うてゆくと相撲走
さゆぐる。徐文とゆく僕も七人の邊役と辺連忍び通す。猪口とも自ら猪口走
りゆく。徐文とゆく僕も七人の邊役と辺連忍び通す。猪口とも自ら猪口走
る。我友惲が往來の際次もぬ伏とう。つて御事半とセ一刀を切く捨ん。
あ切殺さざるも居まふとも面せうぶ。友惲を廓通りの諸次や。猪口走
小坐合に通す。かどいて事務所を沙汰有て。大家の徳使とのとも湯井
有事必定。猪口もまことに。事の興廢。みうちきり。ごりう
かくす。十才より是處。ひふて微差の一切不詮一个と。坐する。猪口走。



陛下与互力を加へぬで御を絶てまぐ厚恩^{アシカス}を蒙^{アモリ}。と思ひ入^{アガム}むも。
鷹飼も本多^{ヒサト}双の佞奸^{ウソノニシキ}一派^{ヒツ}も及^{ハシマ}ばお既既^{ヨリヤマタ}也^{ハシマ}も若む^{ハシマ}えれ。
我汝^{ハシマ}うら互力を用ひて。これどもわざ^{ハシマ}り十二三人^{トドカマハ}僕^{ハシマ}もあんかく
私家^{ハシマ}の奴僕等^{ハシマ}も今も用ひ少す^{ハシマ}。又切入^{ハシマ}く取る^{ハシマ}とぞ^{ハシマ}一念を発^{ハシマ}らな
友^{ハシマ}物^{ハシマ}と村^{ハシマ}の事^{ハシマ}の經^{ハシマ}を手^{ハシマ}うめ^{ハシマ}。人^{ハシマ}は余
益^{ハシマ}く友^{ハシマ}物^{ハシマ}と村^{ハシマ}得^{ハシマ}ともよみだ^{ハシマ}と^{ハシマ}益^{ハシマ}る事^{ハシマ}う。まう^{ハシマ}武器^{ハシマ}
渠^{ハシマ}を殺害^{ハシマ}。と此方^{ハシマ}の^{ハシマ}兵^{ハシマ}卒^{ハシマ}が討^{ハシマ}る^{ハシマ}。又^{ハシマ}一人^{ハシマ}の^{ハシマ}後^{ハシマ}漢^{ハシマ}あり。その
男^{ハシマ}名^{ハシマ}公^{ハシマ}後^{ハシマ}平^{ハシマ}とい。此老原朱^{ハシマ}外^{ハシマ}諸侯^{ハシマ}の家^{ハシマ}に住^{ハシマ}。若^{ハシマ}の^{ハシマ}付^{ハシマ}後^{ハシマ}平^{ハシマ}と
今^{ハシマ}如^{ハシマ}の^{ハシマ}地^{ハシマ}み^{ハシマ}。武^{ハシマ}威^{ハシマ}を仰^{ハシマ}。今^{ハシマ}から^{ハシマ}は^{ハシマ}家^{ハシマ}と^{ハシマ}よ^{ハシマ}を^{ハシマ}。水火
の中^{ハシマ}も避^{ハシマ}。若^{ハシマ}人^{ハシマ}有^{ハシマ}と體^{ハシマ}と重^{ハシマ}ら倭^{ハシマ}が^{ハシマ}わ^{ハシマ}く^{ハシマ}。刃^{ハシマ}の中^{ハシマ}入^{ハシマ}ても
引^{ハシマ}う^{ハシマ}和^{ハシマ}象^{ハシマ}あり。然^{ハシマ}き^{ハシマ}は^{ハシマ}這^{ハシマ}廻^{ハシマ}と^{ハシマ}脱^{ハシマ}ひ^{ハシマ}く^{ハシマ}。又^{ハシマ}宿^{ハシマ}を^{ハシマ}も^{ハシマ}ゆ^{ハシマ}く^{ハシマ}。
後^{ハシマ}平^{ハシマ}門^{ハシマ}又^{ハシマ}入^{ハシマ}ある者^{ハシマ}大^{ハシマ}く^{ハシマ}並^{ハシマ}た^{ハシマ}ね徒^{ハシマ}う^{ハシマ}。而^{ハシマ}渠^{ハシマ}を^{ハシマ}抜^{ハシマ}き^{ハシマ}ひ^{ハシマ}ふ^{ハシマ}難^{ハシマ}を^{ハシマ}
已^{ハシマ}事^{ハシマ}是^{ハシマ}の^{ハシマ}據^{ハシマ}せん^{ハシマ}毅^{ハシマ}ひ^{ハシマ}。這^{ハシマ}廻^{ハシマ}方^{ハシマ}へ^{ハシマ}も^{ハシマ}と^{ハシマ}友^{ハシマ}物^{ハシマ}を^{ハシマ}奪^{ハシマ}の通^{ハシマ}
と^{ハシマ}止^{ハシマ}の^{ハシマ}も^{ハシマ}。其^{ハシマ}が^{ハシマ}受^{ハシマ}と^{ハシマ}傍^{ハシマ}う^{ハシマ}車^{ハシマ}忽^{ハシマ}う^{ハシマ}と^{ハシマ}。又^{ハシマ}家^{ハシマ}渡^{ハシマ}し。輕^{ハシマ}
後^{ハシマ}平^{ハシマ}が^{ハシマ}方^{ハシマ}へ^{ハシマ}。麻^{ハシマ}酒^{ハシマ}一^{ハシマ}鉢^{ハシマ}進^{ハシマ}上^{ハシマ}つ^{ハシマ}。又^{ハシマ}ま^{ハシマ}。七^{ハシマ}言^{ハシマ}仰^{ハシマ}山^{ハシマ}下^{ハシマ}と^{ハシマ}は^{ハシマ}あ
され^{ハシマ}と^{ハシマ}。後^{ハシマ}平^{ハシマ}の^{ハシマ}後^{ハシマ}格^{ハシマ}鉢^{ハシマ}有^{ハシマ}無^{ハシマ}有^{ハシマ}。七^{ハシマ}言^{ハシマ}仰^{ハシマ}山^{ハシマ}下^{ハシマ}と^{ハシマ}は^{ハシマ}あ
後^{ハシマ}平^{ハシマ}と^{ハシマ}懇^{ハシマ}勤^{ハシマ}盡^{ハシマ}意^{ハシマ}山^{ハシマ}体^{ハシマ}の^{ハシマ}恐^{ハシマ}空^{ハシマ}蓋^{ハシマ}。酒^{ハシマ}盃^{ハシマ}を^{ハシマ}起^{ハシマ}。與^{ハシマ}之^{ハシマ}後^{ハシマ}瀟^{ハシマ}
又^{ハシマ}向^{ハシマ}ひ是^{ハシマ}者^{ハシマ}未^{ハシマ}知^{ハシマ}かの^{ハシマ}幼^{ハシマ}有^{ハシマ}名^{ハシマ}誠^{ハシマ}也^{ハシマ}。後^{ハシマ}金^{ハシマ}集^{ハシマ}内^{ハシマ}財^{ハシマ}不^{ハシマ}然^{ハシマ}
未^{ハシマ}成^{ハシマ}也^{ハシマ}と^{ハシマ}云^{ハシマ}。山^{ハシマ}之^{ハシマ}頗^{ハシマ}り^{ハシマ}貪^{ハシマ}也^{ハシマ}。後^{ハシマ}金^{ハシマ}集^{ハシマ}内^{ハシマ}財^{ハシマ}不^{ハシマ}然^{ハシマ}
也^{ハシマ}。今日^{ハシマ}さ^{ハシマ}く西^{ハシマ}渴^{ハシマ}や^{ハシマ}。後^{ハシマ}懷^{ハシマ}か^{ハシマ}う^{ハシマ}。同^{ハシマ}じく^{ハシマ}か^{ハシマ}盆^{ハシマ}頂^{ハシマ}載^{ハシマ}つ^{ハシマ}。又^{ハシマ}
唯^{ハシマ}揚^{ハシマ}び^{ハシマ}と^{ハシマ}く^{ハシマ}人^{ハシマ}と^{ハシマ}車^{ハシマ}活^{ハシマ}する^{ハシマ}。も^{ハシマ}せ^{ハシマ}る^{ハシマ}人物^{ハシマ}上^{ハシマ}下^{ハシマ}そ^{ハシマ}車^{ハシマ}の^{ハシマ}底^{ハシマ}合^{ハシマ}

と。蓋石猪ひの味傍とも。或詳箇石連系アソツモ。歎哉の程を見て。解
ト。又かうたりのたけの用サテ事ナリ。それより下のま徹までねこ
う。都と。ヤセハ水火とも避ざる豪傑也。とぞ。爰を軒を軒へて後橋トシテ。
友御と。乃滿と仕う。ナセ。就と。ガ。懶力する。と。懶。と。ま。ア。又。助カト。ミ
さ。あ。人。も。又。一。代。湯。屋。恩。本。を。ア。キ。ト。所。と。廻。う。そ。う。で。ヤ。ク。ミ
凌。平。哥。と。笑。ひ。と。愁。聲。の。人。の。作。く。し。た。は。在。ミ。う。先。刻。の。内。ミ。ス
大。車。と。れ。ひ。と。作。ア。ア。也。仰。復。の。大。車。と。今。後。胸。と。抱。て。居。ひ。し。ム。
青。筋。宣。曉。か。う。極。よ。あ。う。て。か。一。妻。娘。と。ア。ア。大。腰。至。度。の。廊。通
ひ。の。車。多。く。う。け。ア。ア。及。び。若。往。人。と。減。か。一。そ。代。ア。暗。次。用。乍。モ
又。相。撲。取。あ。人。と。互。通。す。の。風。ナ。赤。裸。ヨ。リ。く。角。力。と。ろ。脚。ハ。力。争。モ
生。タ。れ。た。交。双。試。死。生。ま。と。與。つ。の。場。ア。出。ア。テ。太。闘。の。蘿。蔓。裁。セ。ア。シ。ル
名。利。サ。竹。の。と。ヤ。リ。の。と。ナ。吉。精。の。め。た。ハ。小。身。ト。在。セ。ア。墨。泰。の。眼
迎。方。そ。れ。ア。凌。平。式。の。活。人。と。凌。源。と。の。活。い。う。と。不。可。ア。と。言。ま。ア
サ。サ。ハ。揚。げ。致。一。進。と。ト。口。渴。の。と。ト。即。脣。と。延。モ。ト。お。晚。國。際。の。の
現。今。の。弓。弓。休。ア。く。一。聯。み。あ。ひ。や。ナ。ア。一。仰。香。精。と。ア。墨。泰。と。不。可
ア。在。考。ア。方。ア。弓。弓。高。ア。一。居。侍。の。活。人。と。モ。活。動。懸。り。の。活。ア。エ。ア。ヒ
ア。ミ。ア。其。右。と。モ。ア。七。八。人。と。ア。弓。弓。高。ア。一。仰。香。精。と。ア。墨。泰。と。不。可
ア。大。家。人。學。ア。の。と。う。價。一。臂。門。の。金。ア。ア。金。ア。金。ア。金。ア。

うけ玉虎子。七三帝山にてまひも同と同セア合社源。一ノうく金津飲食
一ノ後平。うあみ。既と叩。ねく。そひの。不うる。山津容。と。鹿。至極は。どく。無事。ア
差科の刀を取く。後平。又。あ。若。古。ヒ。近。所。兼。末。又。今。も。此。腰。の。物。ハ。先。粗
うつ。不。お。い。す。ア。の。業。り。の。較。更。残。場。と。序。く。ろ。貞。之。山。於。の。發。タ。ト。遊。上
住。受。絶。ト。され。ま。千。方。カ。ト。け。き。た。住。令。キ。一。告。ハ。後。平。ニ。夏。ガ。ト。レ。ミ。
一。令。是。代。ト。山。虎。は。ト。山。猿。の。柄。り。の。山。猿。足。ヤ。ス。平。ヤ。ア。リ。湯。本。お。通。う。ル
ア。リ。ア。リ。ト。見。ト。見。ト。見。ト。見。ト。見。ト。見。ト。見。ト。見。ト。見。ト。見。ト。見。ト。

繪本・金花院巻三二終

